

ハンドボール NO16

Japan
Handball
Association



<input type="checkbox"/>	社会人
<input type="checkbox"/>	学生
<input type="checkbox"/>	高専
<input type="checkbox"/>	高体連
<input type="checkbox"/>	中体連
<input type="checkbox"/>	小学生

<input type="checkbox"/>	全国大会
<input type="checkbox"/>	ブロック大会
<input type="checkbox"/>	都道府県大会

<input type="checkbox"/>	男子
<input type="checkbox"/>	女子

試合 番号	e
----------	---

年月日	2022 年 10 月 6 日 (木)
大会名	第77回いちご一会とちぎ国体

公 式 記 録 用 紙

A	東京都										北海道										B
都道府県 栃木県		市町村 野木町		会場 野木町立野木中学校体育館										回戦 1回戦							
前半	A	B	最終 結果	A	B	第1 延長	A	B	第2 延長	A	B	7m罰 ｺﾝｸﾞﾗ	A	B							
7m得点/総数	A		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B		7m得点/総数										
	1/1	1	2	3	1	2	後3	0/0													
								0951	1148												

No.	東京都	G	W	2'	2'	D	DR	No.	北海道	G	W	2'	2'	D	DR
1	堀江里奈							1	横澤花笑						
2	佐茂春陽	3						2	濱田しいな	3					
3	福田舞希	6		1				3	渋井真幸	5					
4	木尾珠里奈	14						4	川口愛素美						
5	長谷川 凛	1						5	加藤璃子						
6	石井杏珠	5						6	杉尾 望						
7	市橋 菜々子	3						7	馬場雪乃	2		1			
8	井橋 萌奈	1						8	川上 菜奈						
9	井上 咲 稀	2						9	上野夏歩	3					
10	小佐野 渚	1						10	山口和穂	1					
11	佐々木 彩華	7						11	福田小晴	2					
12	竹谷 梨花							12	小林 優李香						
監督A	須川 文 敬							監督A	亀山 耕 司						
役員B	榎本 満里奈							役員B	合田 享弘						
役員C	田中 久 樹							役員C	早坂 太吾						
役員D	熊谷 悠 帆							役員D	石屋 和浩						

A	須川文敬	チーム役員A署名	亀山耕司	B
---	------	----------	------	---

特記事項

レフェリー	櫻庭 正明	高橋 良周	櫻庭正明	高橋良周
T D	亀崎 拓也		亀崎拓也	
M O	平松 裕	平松裕		

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール NO 17

第77回国民体育大会いちご一会とちぎ国体

試合結果・戦評報告書

競技日	10月6日(木)	試合番号	E-10	回戦	1回戦
種別	少年女子	会場	野木町立野木中学校体育館		
Aチーム名			Bチーム名		
東京都			北海道		
得点合計	小計		小計	得点合計	
43	19	前半	8	16	
	24	後半	8		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評

少年女子一回戦、東京と北海道の一戦は、立ち上がりから東京が③福田のポストシュート、④木尾のロングシュートでリードを奪い、一気に流れをつかんだ。北海道は序盤にパスミスが続き、なかなかリズムをつかめなかったが、5分、⑦馬場のミドルシュートが決まり、またGK①横澤の好セーブなどもあって次第に落ち着きを取り戻した。しかしながら、東京の堅い守備を崩すことが難しく、なかなか得点を奪えない。逆に東京は⑥石井、③福田、④木尾のサイドシュートやミドルシュート、⑪佐々木の速攻で着実に点差を広げていった。北海道は②濱田のこぼれ球を拾ってゴールを奪う粘り強いプレーや、③炭井のロングシュートで応戦するも、東京の多彩な攻撃に守りを崩され、19-8で前半を終えた。

後半になっても東京の勢いは止まらず、⑪佐々木、④木尾、⑥石井の速攻やサイドをえぐる攻撃で、序盤から10点を奪い、北海道を引き離した。北海道も⑩福田のポストシュート、③炭井のロングシュート、②濱田のカットイン、⑨上野のサイドシュートでゴールを奪うものの、東京の守りを崩すには至らなかった。一方で、東京は中盤以降も⑦市橋のミドルシュート、④木尾の速攻を中心に着実に得点を重ね、最後まで攻撃の手を緩めず、北海道を圧倒した。

北海道の鋭い攻撃や元気あふれるプレーが素晴らしく、そしてそれを上回るほどに、東京の堅守と速攻の破壊力が際立った試合だった。

記載者氏名

青木 圭

送信日時

10月6日(木) 14:22